

評価項目	評価	取組状況・成果・課題	改善策	学校関係者評価等でいただいた意見等
各学校での目標（重点は○数字）・具体策				
I 特色ある学校づくりのための学校運営		<ul style="list-style-type: none"> ・週指導計画を活用し、学習の進捗を見通しながら指導に当たっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種会議が適切に運行され機能しているため、今後もこの体系を継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちのために、地域でできることがあれば協力したい。
① 学校の組織力を生かした学校運営 (1) 特色ある教育課程の編成と実施・改善・充実 (2) 働き方改革の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日課のスリム化や行事の精選・重点化が図られている。 ・組織化がなされ、各種会議が定期的開催されている。 ・課題の解決に向けて、学年・ブロックが組織的に対応することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革の一つとして、地域との連携・協働が、どのような授業で活用できそうか積極的に呼びかけ、一覧表として計画的に実施する。 	
2 教育力を高めるための研修の充実 (1) 学校課題の研究推進	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校課題研修と必要な研修を組み合わせることで、研修の充実に結びついた。 ・学校課題は、子ども達ができた分かったを実感できる「那珂川スタイル」を研修してきた。学力の向上にも着実に結びついている。 ・学力向上推進リーダーや学力向上指導員による支援で、授業力・指導力の向上につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導主任を中心として、各担当が分担しながら、指導力の向上、町の示す重点項目の徹底を、今後も継続していく。 ・職員研修での相互研修を実施し、算数科を中心に各教科で「那珂川スタイル」を徹底していく。 	
3 教育効果を高めるための施設設備の充実と組織的な安心・安全づくり (1) 危機意識の向上と危機回避能力の育成	A	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検を定期的実施し、校舎内外の施設設備については、必要な改善や修繕を行っている。 ・必要な避難訓練が計画的に行われており、自分の命を自分で守る意識が定着している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の定期的な実施と中学校区での引き渡し訓練を定期的に行う。 	

II 家庭・地域との連携				
① より質の高い情報提供と家庭・地域との連携を生かした活気ある学校づくり (1) こ小中の連携を図った教育の推進 (ハッピースローププラン) (2) コミュニティ・スクール開設	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に保護者や地域ボランティアによる協働をさらに取り入れていきたい。 ・地域との連携をさらに深めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPでの啓発やコミスク便りの継続により、さらなる周知を図る。 ・総合的な学習の時間を中心に、地域のひと・もの・ことの活用を推進する。 	
III 確かな学力の向上を図る学習指導				
① 他の学習や生活でも活用できる基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得 (1) 基本的な学習規律と学習習慣の育成 (2) 基本的な学習過程の構築と徹底	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のはじめ・終わりのあいさつを統一し「学習のきまり」を徹底できた。 ・算数を中心に「那珂川スタイル」の授業が定着し、他教科へ広がっている。 ・ペアやグループでのアウトプットが工夫され、児童が言葉で説明できるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の取組を学校全体で継続していくことが大切である。 ・職員が互いの授業の取組を見せ合ったり、紹介し合ったりする機会をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きめ細かな指導をいただけている。
2 よりよく学習や生活上の問題を解決したり創造したりできる思考力・判断力・表現力の向上を目指した授業改善 (1) つけたい力を明確にした授業づくり (2) 授業のユニバーサルデザイン化	B	<ul style="list-style-type: none"> ・辞書を積極的に活用することができた。言葉の意味を知るだけでなく、例文により言葉の使い方も意識させたい。 ・漢字を書く力を高めたい。確認テスト等を行っているが、児童の意欲を高めることも必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書く」課題のときに、使った漢字を数えさせたり、たくさん使っている児童を称賛したりして、意欲に結びつける。(書く単元、新聞ワーク、日記指導など) ・継続的に辞書を活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと一緒に問題を解くことも大切。
3 主体的に学習に取り組む態度、人や社会と関わる力の育成 (1) 自らの学習を調整しようとする力の育成	A	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習は学校全体として習慣化してきている。 ・自主学習ノートの表彰は、励みになっており、児童がよく取り組んでいる。内容も充実しつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の習慣化を図るための、家庭への周知を徹底する。 ・模範的な自主学習ノートの掲示や表彰者の掲示やHPでの周知を継続する。 	

<p>4 言語能力の育成</p> <p>(1) 言語感覚の醸成と豊かな語彙力の育成</p> <p>(2) 言葉の使い方についての理解の深化</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の学力の礎となる国語力(語彙力)を育てる必要があると感じられる。 ・「多層指導モデル(MIM)」の実施(低学年 年間10時間)により、少しずつ言葉が豊かになり、言語感覚が培われた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・MIMの取組の継続と、その活用のための指導法の研修を行う。 ・児童への指導をさらに徹底していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活体験を補えると良いと思う。
<p>IV 自己指導能力を高める児童・生徒指導</p> <p>1 豊かな情操や人間性を培う活動の充実</p> <p>(1) 特活を中心とした自治的・主体的な活動の推進</p> <p>(2) 地域の一と、もの、ことを生かした豊かな体験活動の充実</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会活動では、高学年がリーダーとなり企画を工夫し、積極的に活躍できた。 ・コミュニティ・スクールの地域学校協働本部の取組により、多くのボランティアの協力も得られた。 		
<p>② 人権尊重の精神に根ざした望ましい集団の形成</p> <p>(1) 積極的・組織的な児童指導の展開</p> <p>(2) 豊かな人間関係を育む学年・学級経営の推進</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校や登校渋りについては、組織として対応できている。学校全体で支えていこうとする雰囲気がある。 ・ケース会議、支援会議を必要に応じて随時開催し、配慮児童への支援体制を整えることができた。専門機関との連携もできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き積極的に情報共有し、組織的に対応していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生の言葉かけは、子供にとって効果的なので、重視していただきたい。

<p>3 道徳的実践力の育成</p> <p>(1) 規範意識の醸成</p> <p>(2) 特別の教科道徳の確実な実施と指導の工夫</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・心のアンケートや教育相談を通して児童理解に努めたり、問題行動の早期発見や対応したりした。 ・「学校のきまり」を、児童指導主任を中心に重点を決め、確認する機会を学担会や職員会議時に行っている。 ・職員も児童も明るいあいさつを心がけたことで、自分からあいさつできるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ運動」を担当や学校全体で継続して指導していく。 ・「学校のきまり」を、学年だよりやホームページ等を活用して啓発を継続していく。また、子ども同士で呼びかける。(整理整頓、持ち物の確認等) 	
<p>V 健康・安全、体力の向上</p> <p>① 健康な体づくりを目指した全校体育活動</p> <p>(1) 神経系が高度に発達するゴールデンエイジ期にあった教科体育の充実</p> <p>(2) 体力向上改善プランの立案と実施</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の自主性や意欲を高めながら、運動に親しむ場を設定している。 ・休み時間や昼休みの外遊びは活発。 ・体力向上として教科体育だけでなく、委員会と連携をして体力向上を行った。 ・陸上大会については、多くの先生の協力で、専門的な指導と練習量の確保が図られた。 ・体育部より児童が興味をもつような工夫された活動が提示されていて、技能向上になっていると思う。 ・体育の時間での怪我が少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力づくりも兼ねて、長い休み時間は、外遊びを推奨していく。 ・児童が自発的に運動ができる環境を取り入れる。 ・体育での安全面に配慮して環境・配置をする。併せて、怪我の予防に補助運動を行う。 ・安全に配慮した配置・環境のモデルを提示する。 ・学年、学校で年間を通して単元を統一する。 	
<p>2 安全教育の充実</p> <p>(1) 学校教室のきれいな環境作りの推進</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・無言清掃ができています。 ・衛生チェックを実施し、家庭に協力を得ようと進めている取組の継続、強化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無言清掃は今後も継続する。時間いっぱい清掃を進める。 	

<p>3 食と健康の教育の充実</p> <p>(1) 家庭や関係機関と連携を図った基本的な健康生活習慣の形成</p> <p>(2) 情報モラル教育の推進</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットPCの使い方については学校でのきまりや家庭でのきまりを提示する。メディア時間の長さと見ている内容に制限がないため、情報モラルを徹底したい。 ・家庭でのメディア使用については、根気強く働きかけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルに関しては、児童指導と連携をしながら進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣について、保護者同士の情報交換ができるとうい。
--	----------	--	--	--

(様式) 令和6年度 那珂川町立馬頭小学校 学校評価報告書

- ・評価項目の評価欄は、各学校で設定した目標等の評価を総合的に評価して記入してください。
- ・各学校の目標については、できるだけ分かりやすく記述してください。